

令和六年度幻住庵俳句コンクール 年間優秀賞

第117回～120回

特選句集

◇大津市長賞

お年玉孫は次々親になり

大津市光が丘

大槻 幸恵

【評】孫にお年玉をあげるのも楽しいお正月の行事。可愛いポチ袋を選び添える言葉を考えるのも至福の時間。その幸せは逆に孫からお年玉をもらっている様な気分。その孫も親となり同じ幸せを味わっていると感慨深い作者。

(撰者 志村 宣子)

◇大津市市会議長

炭の位置ととのえてゐる土用丑

大津市栄町二

森本 和子

【評】売り切れると困ると思い早目に店に出かけると、まだ準備中で店の主は備長で火を起こし焼台に炭を並べている。ととのえてゐるといふ中七の表現が素晴らしく、味にこだわる老舗のうなぎ屋であることまで窺わせている。

(選者 小林 紀夫)

◇びわ湖大津観光協会会長賞

音たてて表紙切りとる初暦

大津市柳川一

圓井 公子

【評】新年に期待と願いを込めた行動が「音立てて表紙切りとる」に弾む気持ちが表現されています。誰でもが経験した、よく解かる秀句です。いくつになっても新年を好奇心をもち迎えたいものです。

(撰者 滋賀 恵美子)

◇京都新聞賞

原子炉の黙する上を鳥渡る

草津市若草三

井上 次雄

【評】実は昔、私も似た句を造った。それは放射線と渡る白鳥の取り合わせだったが、句会では堅い言葉の使役に賛否諤々。が今回、投句に見え躊躇なく選んだ。無為なる自然と有為なる人工物に齟齬は無しや、思惟膨らむ句。

(撰者 馬場 民代)

◇幻住庵保勝会長賞

ともかくも三票入り冷素麺

京都市伏見区

本西 一代

【評】お昼何にしましょうか聞いて、素麺で良いよなんて言われたら、主婦はムカツとします。作る過程がとても暑いからです。「ともかくも」は主婦はあきらめの言葉ですね。多数決で決まれば仕方ありません。

(撰者 山田 鳴子)

◇佳作

帰省子のもち食う力寝る力

栗東市中澤二

葛城 巖

姫君の胸に手を入る菊師かな

草津市若草三

井上 次雄

掛け軸は芭蕉と曾良や秋めけり

高槻市桜ヶ丘

伊地知 陽子

凍星よ国境線のなき空よ

大津市別保二

田中 文子

山寺へ上る灯の列去年今年

大津市稲津三

加集 正尊

独り言流れ秋雲聴いている

大津市柳川一

丸岡 佐代子

山門といふ春風の出入

神奈川県横浜市

谷元 博樹

ブルーシート屋根に居座る寒さかな

大津市柳川一

圓井 公子

足湯して近江の春を惜しみけり

草津市若草三

井上 次雄

絵巻物ごとく流るる花の帯

大津市里六

宮崎 正子

鼓無く構へよろしき雛かな

草津市若草三

井上 次雄

秋惜しむ余生は俳を杖として

栗東市中沢二

葛城 巖

訪ねきて翁の化身か夏の蝶

八尾市開曙川東

米澤 悦子

空似とは淋しさ増して帰り来し

大津市栄町二

森本 和子